教職大学院 NEWS

三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻
第18号 H31.3月発行

三重大学教職大学院の歴史に刻まれる、、1期生卒業！

平成 31 年 3 月 25 日、本学教職大学院の 1 期生 15 名が、卒業を迎えました。ご卒業おめでとうございます。

贈る言葉 ～ 教職実践高度化専攻 議長 森脇 健夫

僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る（・・・まだ続きますが)、皆さんもよく知っている高村幸太郎の「道程」という詩の一節です。まさにパイオニアである皆さんの心境ではないでしょうか。

2年前、これから起きるさまざまな「出来事」に胸躍らせながら大学の門をくぐったあの日の想いは、今、どのくらい成就したでしょうか。教職大学院という時間と空間、そしてつながりの中でどれほどのことが学べたでしょうか。

私たち教員スタッフも多くのことを皆さんに学ばせていただきました。創成期のカリキュラムは私たちにとっても冒険の日々でしたし胸躍るものでした。また皆さんとのつながりは、少なくとも私にとっては世界を広げるものになりました。こんなにも自分の興味関心のアンテナの高い教員や学生が三重県にいる、ということが確認できただけでも幸せな日々だったと思います。

教職大学院そのものが新しい試みであるのですが、その中でもとくに一期生とのいろいろな思い出は、歴史に刻まれ伝承されていきます。また皆さんの未来は、私たちの期待と関心の中で展開されていくでしょう。ぜひこれからも自分に与えられた場で、この学びを忘れず研鑽を積んでいっていただきたいと思います。またときどきは教職大学院の経験に立ち返ってものごとを考えていただけると私たちにとっても望外の喜びです。修了、おめでとうございます！！

教職大学院での二年間の学修を終えて～１期生のメッセージ

三重大学教職大学院での長期実習（東紀州・連携校・現任校）や授業、そして先生方や同じ院生の仲間たちとの対話を通して、教師としての省察的実践の一つのあり方を、体感を通してつかむことができました。また、研究や論文作成における基礎的な知識・技術も習得することができました。三重大学教職大学院の院生としての学びはこれで終わりですが、私の学びはまだ始まったばかりです。これからも学び続ける教師として、三重大学教職大学院で培ったことをさらに深め、日々省察を繰り返し、同僚・生徒、教育に携わる多くの方とともによりよい教育のあり方を目指して、学び続けていきます。三重大学教職大学院の先生方、快く送り出していただいた現任校の先生方、長期実習でお世話になった先生方や生徒・児童のみなさんに、心からお礼申し上げます。そして、今後ともよろしくお願いいたします。【学校経営力開発コース・角谷 道生】

「他を広く知ることで、今までの取組の良さがより見えてくる」と、入学して間もない頃に先生から話していただきました。この言葉は新鮮で、常に意識しておりました。1年目は授業の課題をこなすことに追われ、本を読んで理解することさえ難しさを感じました。しかし、じっくりと本を読む時間、同期院生と学び合う時間を経て、少しは理解の幅が広がったような気がします。1年間の学修によって、ものの見方・考え方が変化したことを2年目に現任校に戻って感じました。2年間の学修を支えていただいた輪内中学校、みさとの丘学園、朝陽中学校の先生方、ありがとうございました。なにより、教職大学院の先生方には、日ごろから学修状況を気にかけていただき、優しく声をかけ、支えていただきました。感謝申し上げます。【学校経営力開発コース・小宮 康子】

私は、教職大学院に2つの目的があって入学しました。それは、自分の授業を見直し、生徒にとってより魅力的な授業にするにはどうすればいいか探求すること。もう１つは授業を中心においた研修を基に同僚性のある学校づくりを進めるために必要な力をつけることでした。教職大学院での授業や他校での研修会や講演会、教職大学院のメンバーとのディスカッションを重ねてきたことから、ある程度の方向性を見つけることができました。この2年間で知識や見識が身に付いただけでなく、授業や組織、生徒に対する意識や考え方を大きく変えることにつながりました。今後、こういった意識や考え方を同僚と一緒に深めていくことができればと考えています。
【学校経営力開発コース・杉野 拓也】

教職大学院の２年間では、学修テーマとしていた情報教育について、基礎・基本からじっくりと学ぶことができました。また、連携校や現任校の協力を得て、タブレット端末を効果的に活用するための授業づくりや校内研修の推進についても、学修を進めることができました。校種や年齢、立場が異なる方々との学校経営や教育相談などについての意見交流は、これまでの自分をふりかえる機会になったと思います。今後は、学んだことをいかし、現任校での情報教育を進め、自分自身が学び続けることを忘れず、日々努めていきたいです。【学校経営力開発コース・世古 浩一】

教員を15年続けていますが、これまでは「卒業」というと送り出す側ばかりでしたが、久しぶりに自身の「卒業」の日を迎えます。この2年間で得たものの中で、一番の宝物となったのがたくさんの方々との出愛(であい)だったと振り返ります。本当に多くのことを学ぶことができた時間だったのですが、こうして振り返ると思い出すのは学んできたこと以上に、その過程で見せる皆さんの真剣なまなざしや、笑顔だったりするものなんだなとしみじみ感じています。4月からは、いよいよそれぞれの現場に戻りますが、この繋がりはずっと続いていくことでしょう。教職大学院で学ばせていただいたことを胸に、皆さんとともに三重の教育を盛り上げていけたら、と熱く意気込んでいます。
【学校経営力開発コース・野呂 貢一】

三重大学教職大学院での2年間は、語り尽くせぬほど多くの学びを得る期間となりました。
学校経営をはじめ、充実した講義内容、通常では経験できない異校種での長期実習、さまざまなことで切磋琢磨し合える仲間。すべてが自分自身の「深い」学びにつながりました。また、指導教官の先生には、自身が立てたテーマ「学校現場における教育相談の充実」について探究していくにあたり、丁寧なご指導をしていただきました。教育相談について、知らなかったことが多くあることに気づけました。自分の弱みや甘さもしっかりと見つめることができました。今後学校現場に内容を還元していきます。
【学校経営力開発コース・福永 名津】

三重大学教職大学院の先生方からの丁寧な御指導と同期入学生の方々との探究により，充実した2年間を送ることができました。昨年の東紀州実習・連携校実習では新鹿小中学校，東橋内中学校の教職員および児童生徒の皆様のおかげで，経験したことのない異校種での貴重な実習を経験することができました。また，今回の聞き取り調査にご協力いただいた事業所および卒業生の皆様の御協力はもとより，在籍校の皆様の温かな御支援のおかげで2年間の学修を行うことができました。本当にありがとうございました。考察はまだ浅く道途中での2年間終了です。学校への還流とともに，今後も引き続き考察を深め探究し続けたいと思います。【学校経営力開発コース・古川　真由美】

教職大学院での多くの科目や数々の実習から、専門的な知識や技能を学び、「理論と実践の往還」の大切さを実感しました。今までは授業実践を積み重ね、実践知を高めることに専念してきましたが、実践を裏付ける理論も必要なことがよくわかりました。また「小学校における『深い学び』の具体的条件の解明」を学修テーマとして研究を深め、「深い学び」を実現する授業に必要な具体的条件の解明と、実践するための手立てをまとめることができました。これからは、理論に基づいた授業分析や教材研究に取り組むとともに、大学院で学んだことや研究成果を現場に持ち帰り、還元していきたいです。大学の先生方や同期生と過ごした日々は一生の思い出です。
【学校経営力開発コース・牧野 江津子】

2年間の学修を終えた今、自分自身の成長を実感している。大学院の先生方のご指導や、1期生や2期生の方々との学びの中で多くのことを身につけることができた。それは単に知識が増えたというだけではなく、物事の捉え方や考え方を学んだという方が近い。「どんな授業をするのか」という答えばかりを考えていた自分が、2年間で「子どもたちのどんな力を育むのか」ということを受業づくりの出発点とすることができるようになった。これからは，教職大学院で学んだ多くのことを周りに還元していく役割を担うことになる。しかし、自分自身も学びの出発点に立ったに過ぎないのだから、歩みを止めずに研究と修養につとめたい。【学校経営力開発コース・水谷 佳満】

教職大学院在籍の2年間で、東紀州実習や連携校実習、公開授業等をとおして、延べ150名近くの三重県の小・中・高校の先生方の授業を参観させていただいた。特に、普段見ることのない小・中学校の先生方の授業を拝見することから、授業や児童生徒に対する向き合い方において、高等学校の現場にいたままでは得られなかったであろう、大きな学びを得ることができた。また、その学びを実践的・理論的に報告書としてまとめるうえでは、教職大学院で受講した授業での学修内容を生かすとともに、多くの先生方からアドバイスやご支援を戴くことで形にすることができた。修了後は教職大学院での学修を生かし、三重県の高等学校教育の発展にますます寄与していきたい。
【学校経営力開発コース・峯下 隆志】

三重大学教職大学院で過ごした2年間は、非常に学ぶことが多く、充実した時間でした。私の学修テーマは一言で表現しますと、「地域学習」についてです。ここでの学びを通して、子どもたちが日々生活する中で本当に関心を寄せているコト・モノを、子どもたちに教えてもらうこと、そして、それを教材とすることの重要性を感じました。同時に、これは大変に難しいなとも思いました。学べば学ぶほど、疑問や自身の未熟さを感じずにはいられませんが、これからも楽しく学び続けていきたいと思います。そして、子どもたちの学びの一助となれる教師になりたいです。2年間ありがとうございました。【教育実践力開発コース・浦口 真凜】

私は、「伝わりやすい英語」を目指した授業づくりというテーマで学修をしてきました。特に力を入れたのは、2年目の長期実習でのスピーキング音声指導です。実習期間中に自分の期待した成果を実らせることはできませんでしたが、今後の指導方針を見つけることができました。教職大学院に来ていなかったら、ここまで考えを深められなかったと思います。4月からは、本当の教師として教壇に立ちます。大学院で学んだことを活かしながら、まだ見ぬ世界を切り開いていきたいです。そして、いつかの将来、この2年間でお世話になった皆様に良い報告ができるよう、勇往邁進していこうと思います。【教育実践力開発コース・山中 眞帆】

「教職大学院の授業において、教育に関わる理論を学び、さらに学校現場で実践するならどのように活用できるだろうかと、理論と結び付けて考えることができました。また、たくさんの学校現場の様子を見る機会にも恵まれ、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの様々な学校現場における授業参観、学習指導の実践に関わる中で、学習指導がどのように行われているのかを学ぶことができました。２年間の教職大学院での学びを通じて、より多面的な見方・考え方ができるようになったように感じています。学び得たことを教育現場に出たときの糧とし、生徒の実態と向き合いながら実践を積み重ねる中で成長を続けていきたいと思います。」
【教育実践力開発コース・西田 郁美】

私は、教師としての力量形成を目的として、教職大学院に入学しました。大学院での講義や実習、研究会への参加を通じて、中学校英語科の教員を志す自身が小学校における外国語教育のこれからを知ることは重要であると気付き、小学校における外国語教育を学修テーマとしました。2年次の連携協力校実習では、小学校における外国語活動の授業見学や授業実践を通じ、小学校における外国語教育では、児童の興味関心に根差したテーマ設定の重要性、担任教師の関わり重要であること等が分かりました。教職大学院での学びを生かし、外国語活動とのつながりを意識し、生徒がもっと学びたいと感じられるような授業を展開できるように、これからも精進していきます。
【教育実践力開発コース・吉川 和希】

私は、高等学校英語の教員を志すにあたり、小・中・高の「つながり」を大切にした学習指導ができるようになりたいという思いから、教職大学院に入学しました。学部新卒の私にとって、様々な校種での実習が貴重な経験となりました。子どもたちが各段階で先生方の働きかけによって鍛えられ、時間をかけて強く優しく成長する姿を目の当たりにしました。授業実践は思うようにいかないことばかりでしたが、だからこそ、経験に頼りすぎず、理論を学ぶことが大切だと気づくことができました。2年間の学修を終え、「高等学校では中学校から進学してくる生徒の可能性をさらに拡げたい」という思いが強くなりました。そのために、私は教師としての資質・能力を高め続けていきたいです。【教育実践力開発コース・吉村 友希】

編集・発行　三重大学大学院教育学研究科　教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当
☎ 059-231-9319（学務担当）　〒 514-8507　三重県津市栗真町屋町 1577
URL　http://mkd.edu.mie-u.ac.jp (教職大学院専用 HP)　info-mkd@edu.mie-u.ac.jp